



Title	北京の古書店
Author(s)	大橋, 賢一
Citation	札幌国語研究, 2: 87-91
Issue Date	1997
URL	http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/2607
Rights	本文ファイルはNIIから提供されたものである。

北京の古書店

北京師範大学に留学して半年以上が過ぎた。今回の留学の目的は主に修士論文を書く準備をすることだが、同時にできるだけ自分の専門に関わりのある書籍を買いおうと思つてやつてきた。ところが、この「本をかう」というのが、案外大変な作業なのである。

私の研究分野は古典文学なので、買いたい本は古典に関するものが中心となつてくる。北京で古典に関する書籍を扱つていゝ場所といえば琉璃廠を思い出す人も多いだろう。しかし、ここには古典に関する書物もあるにはあるが、ほとんどが新刊ばかりで、以前（一九四九―一九九〇年初頭）出版された古典に関する書物は極めて少ない。

中国の書店は大まかに分けると三種類ある。一つは新刊だけを扱う「新華書店」。全国いたるところにこの「新華書店」がある。ここでは色々な種類の書物が売られてゐるが、専門書は少ない。もう一つは外国語及び外国文学に関する書物を主に扱う「外文書店」。ペーパーバックの英文小説が売られていたり、

中英、中日などの辞典類が充実している書店だ。これも「新華書店」と同様、大都市ならば市内に必ず何軒かある。そしてもう一つが「中国書店」。この書店は、主に古典に関する新刊を扱つてゐるばかりでなく、出版点数が少なかつたために現在は入手しにくい書物や、清末に出版された線装本等も売つてゐることがある。つまり、「中国書店」が古書を扱う書店なのだ。

琉璃廠の中にも「中国書店」は何軒かあつて、そこで古書を見ることが出来るが、決して多くはない。日本の古書店のように、古書だけを扱つてゐるわけではないから、書店の隅に置かれてゐるだけである。しかも琉璃廠は、古書の流通効率が悪いのか、新入荷の古書を目にするにはほとんどないのだ。

私が北京に来たばかりのとき、古書が売られてゐる場所は、琉璃廠しか知らなかつた。ほかの「中国書店」の場所も知らなかつたので、琉璃廠に足を運ぶよりほかなかつた。そんなある日、日本で出版された北京のガイドブックの地図上で故宮の西の西単に「中国書店」があることを知つたので早速出かけてみ

た。この「中国書店」は瑠璃廠のものと比較してかなり小さかったが、欲しい本が手に入りそうな雰囲気があった。しかし、その時には特に必要な本は結局見つからなかった。驚いたのは日本で最近出版された本が何冊かあって、その中に『おいしいコーヒーの入れ方』があったことだ。中国ではコーヒーといえればインスタントを飲むほうがまだ一般的で、豆を挽いてコーヒーを飲んでる中国人を目にすることはほとんどない。ちなみに値段は一五元ほど。北京で一元払えばワンタンを一杯食べられるのだから、一般市民にとつてこの本は決して安いとは言えない。その日は、いったいどんな人がこの本を買うのだろうと思ひながらこの「中国書店」を後にした。

またある日、中国人の友人と京劇を見に行くとき、劇場までのバス停を探していたところ、偶然にも新街口という師範大学からさほど遠くないところで「中国書店」を見つけた。ここは西単のものよりも大きく、古書も多く売られていた。しかし、ほとんどが大学の過去のテキストや医学書で、欲しいと思う古書は置いていなかった。とはいえ、この二軒の「中国書店」を見つけたことで、広い北京のこと、きっと別の所に自分の思い描く古書店があるに違いないと確信が持てるようになった。肝心なのは「中国書店」を見つけたことだ。手取りばやいの人は人に尋ねることだと思ひ、手当り次第に中国人の友人に聞いてみたが、彼らはそういうことに詳しくはなかった。

そんなときに北京の「中国書店」の場所をいろいろと教えてくれたのは、意外にも韓国人の友人だった。彼は実にさまざま

な「中国書店」を知っていた。北京大学近くの「海澱図書館」(書店街)の「中国書店」を手始めに、北海公園後門そばの「中国書店」、中国美術館に近い隆福寺の「中国書店」、東四と東単の「中国書店」である。

これらのうち、特に北海公園後門以下四軒の「中国書店」にはそれぞれ個性があるので、古書に興味がある人は行くだけでも面白いと思う。この四軒に共通して言えることは、どれも繁華街にあるということ。日本では大学の近辺に古書店が密集するようだが、中国では少し状況が異なるようだ。繁華街にあるだけに、近くにはおいしくて安いラーメン屋や肉饅屋がある。書店に入ると無意識のうちに本を買ってしまい、財布が軽くなっていることがしばしばあるだけに、近くにこういう店があることは非常にありがたい。また、これらの書店は全体的に薄暗くて、店内に置かれている書物の密度が異常に高い。特に北海公園後門と隆福寺の「中国書店」は狭くて圧迫感を強く感ずる。本棚の上に更に二段、三段と書物が積まれており、地震が起きたら大変なことになると思う。また、この二軒は古書が比較的頻繁に入荷するので、たいてい何かしら収穫がある。しかし、ここで買う古書は、あまりにも古書らしくないのだ。

どうも中国の古書は、以前誰かが所有していた書物を買ったものというよりも、書店で売れ残ったものを高くして売っているようなものだ。例えば、一九八七年発行の本で、当時の定価二・八五元のもものが二十二元で売られていたりする。この本をめくってみても誰かに所有されていた形跡は全くなく、

新刊書とほとんど同じに見える。おそらくどこかの大型書店に残っていた在庫を、そのまま「中国書店」に払い下げたのではないだろうか。どうしてこのような本が突然売りに出されるのか、本当のところはよく分からない。

最近、中国の新刊書はオフセット印刷のものが増え、装丁も凝ってきているが、活版で印刷されたものも少なくない。特に再版するときにはオフセット印刷に変えることは少ないようで、中華書局から版を重ねている『二十五史』はずっと活版のままである。そのために紙面は再版を繰り返すたびに汚くなっていくようだ。ほかにも例えば私の購入した第六刷の『李太白全集』

(中華書局、一九九五年発行、一九七七年初版)は、インクのムラがひどいばかりか、印字も紙面に納まつておらず、とても読みにくい。先日、隆福寺の「中国書店」で、この初版を目にしたが、非常に美しい仕上がりがだった。値段は初版時の十倍にはなっていたが、私が購入したものよりも若干安かった。この初版本の方が当然買い得である。こういうこともあって、再版本を買うのはとても危険なことのように感ずる。印字が汚いばかりでなく、時に落丁があるのだ。特に中華書局の再版本に多く、購入するときには全頁にわたって十分に点検するべきだと思う。落丁のみでなく、頁の破れを発見することもある。本を買って自室にもどり、読もうとした瞬間にこれを見つると、また遠くの書店に取り替えに行かなければならないのかとうんざりする。こんなことを最近の新刊本、もしくは再版本を購入したときに何度か体験した(新刊本には落丁はほとんどないが、

破れが多い)。しかし、「中国書店」で買う古書にはこういうことがほとんどない。古書を買うときに注意力は不要で、新刊本を買うときにそれを高めなければならないのは、何やら逆のようで苦笑してしまう。

古書店には足繁く通うのが鉄則と思っているのは私だけではないだろう。いつ、どの書店に希少本が入荷するか分からないからだ。自分の探している本が知らぬ間に別人の手に渡ってしまうことを想像すると、ついつい一週間に一度くらいは「中国書店」に足を運んでしまう。そうすれば数は多くないが収穫はあるものだ。

ある日、「中国書店」で欲しかった本を手にしたときの私の表情を見て、友人が、「何とも言えない顔をしているね。」と言っていたが、心底欲しかった書物を手中にしたときは、書物に限らず誰もが幸福そうな顔をするのではないだろうか。特に最近では、十二億以上の人口を有するこの国で、わずか千部ほどしか刊行されないものもあるのだ。だからそのような書物を偶然に「中国書店」で手にしたときにはやはりほくそ笑んでしまう。

北京に来てあちこちと古書店巡りをし、さまざまな書物と出会ったことで、いっそう書物に愛着が深まり、親しみが湧いてきた。書物との出会いは、人との出会いと似ているような気がする。お金が足りなくて、次回に買おうと思った本がすでに売れてしまっているという苦い体験も何度か味わった。しかし、その本が別の書店で入手できたこともある。そのような本を買ったときには、その書物は私に買われるのを待っていたので

はないか、とすら思うのだ。北京の古書店を巡ることで、苦汁をなめることもあるが、それ以上に楽しい体験もしている。

最後に、私が今までに見て回った「中国書店」と、新刊書だけを扱っているけれどもお気にいりの書店の所在地を記しておこう。今後北京に来て書店巡りをしようと思っっている人たちの参考になれば幸いだ。

① 風入松書店：新刊本のみを扱う。優待券あり。北京大学南門のすぐそば。入口が小さくて少々見つけにくい。海淀区海淀四六号。

② 二西堂書店：新刊本と若干の古書を扱う。優待券あり。海淀区海淀西大街六四号雪芹書画社大樓。

③ 三求書店：コンピュータ関連の本を扱うが、古書も扱う。入口が目立たず見つけにくい。海淀区海淀西大街七号。

④ 中国書店：公共バスの二二路「小西天」から歩いて十分ほど。海淀区小西天志强園二三号楼。

⑤ 中国書店：地下鉄「西直門」を出てすぐ。「北京図書音像城」は、「中国書店」ほか、さまざまな書店が集まっているブックセンター。西城区西直門内北濱河路一號。「北京図書音像城」内。

⑥ 中国書店：公共バス二二路「新街口」からすぐ。西城区西直門内大街二八号。

⑦ 中国書店：北海公園後門すぐそば。西城区地安門西大街荷花市場内。

⑧ 中国書店：公共バス二二路「西单商場」から、南に歩いて十

分ほど。古書は少ない。西城区宣内大街二七号。

⑨ 三聯書店：新刊書のみを扱う。とても綺麗。地下一階、地上二階の大型書店。東城区美術館東街二二号。

⑩ 中国書店：中国美術館のすぐそば。目立たないため、見つけにくい。東城区隆福寺三〇号。

⑪ 中国書店：東四大街にある。日本の古書のほか、ロシア語で書かれた古書もある。東城区灯市口門市部。

⑫ 中国書店：かなり大きい。線装本も扱う。日本の古書も多い。東城区東单北大街一〇一号。

⑬ 中国書店：線装本が多い。宣武区瑠璃廠西街五九号。

⑭ 北京古籍書店：線装本が多い。二階建てで大きい。古書は少ない。クレジットカード使用可。宣武区瑠璃廠西街四三号。

⑮ 中国書店：大きな店。最近一部改装され、モニターに新刊が表示されるようになった。クレジットカード使用可。宣武区瑠璃廠東街一一五号。

⑯ 北京安徽四宝堂：線装本が多く、日本の古書も少なくないが、在庫の変化に乏しい。宣武区瑠璃廠東街一一五号。

⑰ 中国書店：工人倶楽部すぐそば。瑠璃廠へ歩いて十分。北京に関する本が多い。宣武区南新華街一七七号。

〔出版社の読者服務部〕

① 人民文学出版社書刊門市部：最近できた。東城区東四大街一七号。

② 北京図書館出版社（元の書目文献出版社）読者服務部：西城区文津街七号北京図書館分館内。

③人民音楽出版社華彩文化服務公司：一階は楽器店、二階は楽譜をはじめ、古典音楽に関する書籍を扱う。宣武区瑠璃廠西街三六号。

※このほか、中華書局、商務印書館の読者服務部が王府井大街にある。
(本学大学院修士課程二年)